

ごあいさつ



大垣市長

小川 敏

伝統ある「田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会」を開催するにあたり、ここ大垣市へ県内外から多くの皆様にお越しいただきましたことを、心より歓迎申し上げます。

さて、1980年に大垣市総合体育館の完成を記念して始まって以来、40回もの長きにわたって開催してまいりました「中日西濃駅伝競走大会」であります。このたび「ファイナル」を迎えられることとなりました。本大会は、地元の西濃地域だけでなく県内各地や愛知県、三重県などから、高校、大学の陸上部をはじめ、職場の同僚や愛好家など、多くのランナーの皆様へ愛され、中部地区最大規模の大衆駅伝大会と称されるまでに成長してまいりました。こうしたなかで、最後の大会となりましたことは、誠に残念でありませんが、今まで本当に多くの方から愛され、支えられてきたことに深く感謝申し上げます。

本日出場されます選手の皆様には、「福寿杯」の由来であります、「踏まれても 踏まれても 強く野に咲く福寿草」のように粘り強い走り仲間との絆であるタスキをつないでいただくとともに、ファイナルにふさわしい熱い熱い戦いで、レースを盛り上げていただきたいと思っております。さらに、本大会が皆様の記憶にいつまでも残る素晴らしい大会になることを願っております。

最後になりましたが、長きにわたり本大会を支えてくださいました大垣市陸上競技協会、中日新聞社をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本大会のご成功を祈念申し上げ、あいさついたします。



海津市長

松永 清彦

今回で最後の大会となります「田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会ファイナル」が県内はもとより、中部各県より多数の選手の皆様をお迎え盛大に開催されますことを心から歓迎いたします。

さて、40回目を迎える本大会は、年を経るごとに盛大に開催され、参加チームが200を超える大衆駅伝大会として中部地区最大規模に成長してまいりました。

海津市内は、26キロにわたってコースが設定されており、のどかな田園風景や木曾三川に囲まれた広大な美しく豊かな自然の種々相にふれることができます。ぜひこの自然を肌で感じていただき、参加選手の皆様への活力となれば幸いです。

また、本大会は毎年250余名の市民の皆様が交通誘導ボランティアとして大会の運営をサポートしています。参加選手の皆様におかれましては、運営に携わるたくさんの方々のサポートを受けこの大会が成り立ってきたことに、感謝の気持ちを持ってたすきをつないでいただきたいと思っております。今大会が参加者相互の親睦を深めるとともに、日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮していただき、思い出となりますことを心から願っております。

最後に、本大会の開催にご尽力賜りました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、本大会のご成功をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。



輪之内町長

木野 隆之

今年で40周年を迎えた田口福寿杯中日西濃駅伝競走大会が、ファイナルとして盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

輪之内町は、平成4年の第13回大会からコースに加わり、27年にわたって、本大会にお越しいただいた皆様を歓迎してまいりました。今や中部地区最大規模の大衆駅伝として根付き、選手と地域住民を結びつけてきた中日西濃駅伝大会がその長い歴史に幕を下ろすことになり、たいへん名残惜しく思います。

さて、大会に臨まれる選手の皆様は、日頃の練習の成果を存分に発揮され、この自然豊かな西濃のコースを駆け抜けていかれることでしょう。その力走が、これまで大会の開催に努力されてきたスタッフの方々や、沿道で声援を送る観客に活力を与えられます。この大会に参加される全ての方の思いも背負い、完走されることを期待しております。

私は、輪之内町役場西側道路から、「一般B」の部のスターターとしてピストルを鳴らし、颯爽と走り抜ける選手の皆様を見送ることが、毎年楽しみでありました。今年で最後となりますが、その号砲を鳴らす瞬間を心待ちにしています。

結びになりますが、本大会の開催に向けてご尽力された関係各位のご協力に心から感謝申し上げますとともに、本大会のご成功を祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

ごあいさつ



中日新聞社 社長

大島 宇一郎

田口福寿杯中日西濃駅伝競走大会が盛大に開催できますことを、大変光栄に思います。

本大会は昭和55年、大垣市総合体育館が建設されたことを記念して、地域スポーツの発展と陸上競技の普及・強化を目的に設立されました。田口福寿会・西濃運輸株式会社のご協力を得て、全国有数の大衆駅伝として成長し、当地域における2月の風物詩ともなっています。

駅伝は陸上競技では数少ない団体競技です。個人の力量だけでなくチームとしての団結や仲間への信頼が大切で、タスキをつなぐことの難しさがあると同時につないだ時の喜びも格別です。過去の大会においても、タスキのリレーにまつわる数々のドラマが展開されてきました。

私たち主催者も、「中日西濃駅伝」開催というタスキを長年にわたりつないでまいりましたが、40回目を迎える今大会をアンカーとして終了いたします。これまで大会を続けてこられましたのも、大垣市陸上競技協会をはじめ運営に携わる多くの方々、毎年楽しみに参加いただく「中日西濃駅伝」を愛する皆さまのおかげと、心から感謝申し上げます。

中日新聞社といたしましては、紙面を通してランナーの頑張りや沿道の盛り上がりを発信してまいりますとともに、大会を有終の美で飾れるよう全力で運営にあたりたいと思います。

開催にあたり格別のご協力をいただいております大垣警察署、海津警察署、第1回から特別協賛として大会を支えていただきました田口福寿会・西濃運輸株式会社をはじめとする関係各位に心より感謝申し上げ、ごあいさつといたします。



大垣市陸上競技協会 会長

金森 武

田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会は第40回目を迎えることになりました。1980年（昭和55年）に大垣市総合体育館の完成を記念して行われることになりました本大会ですが、関係の皆さまの大変なご努力により今では西濃地方になくてはならない大会に成長しました。しかし幹線道路の交通規制による住民生活への影響や出場選手の安全、運営する競技役員の確保などの課題に直面しており今回を最後に歴史ある大会を終了することになり寂しいこととなりました。

しかし、タスキをつなごうとする選手の皆さまのひたむきさを応援する気持ちに変わりはありませんので、中継所における繰上げスタート時間は今までどおり先頭ランナー通過後30分といたします。

今年も愛知県、三重県、岐阜県を始めとする各地から、大垣市、海津市、輪之内町にお越しいただけますことは、地元には大きな活力が生まれますので、主催者の一員として大変うれしく思います。どうかご参加の皆さまも日頃きたえられた力を十二分に発揮して、楽しい一日になることを願っております。

最後に、本大会を開催するにあたりご支援、ご協力をいただきました関係各位に心よりお礼申しあげ、ごあいさつといたします。